

◆ボランティア協力校紹介◆

郷土を愛する大川の子

奄美市立大川小中学校

大川小中学校（校長山川哲郎）は、奄美市街地より約8kmの位置にあつて、朝戸・伊津部勝・西田・仲勝・前勝の大川小学校区と、名瀬勝・小湊（古晴・大金久）の小湊小学校区を含む大川中学校区から形成されています。

校歌に「七つの里の背をいだし、……」とあるように、全部で七つの集落から成り立っています。

小学校児童数四〇名（三・四年、五・六年複式学級）、中学校四十九名の小中併設校で、特別養護老人ホーム「めぐみの園」やグループホーム「あすか」が近隣にあり、早くからお年寄りとの交流を深めてきました。

平成十七年度からボランティア活動普及協力校の指定を受けて、これまでの活動を充実させながら新たな活動も取り入れ、地域の方々と触れ合いや、地域の方々の知る体験活動などを行っています。

一 高齢者との交流活動

高齢者との交流を小、中学校それぞれで行っています。小学校では、年に一回「めぐみの園」を訪問し、歌や踊り、ゲーム等をして交流しています。

中学校は、「めぐみの園」と「あすか」の二か所を年二回、中学一年生と二年生が交互に訪問し、奉仕作業を行っています。また、九月には中学一年生が「あすか」を訪問し、グループでの発表やゲーム等をして交流を深めています。この他、中学三年生は「めぐみの園」で十一月に三時間を



めぐみの園訪問

かけて福祉介護実習を行い、高齢化社会や福祉について考える場としています。



施設での活動

二 地域の文化に触れる活動

奄美の伝統文化や伝承されている地域の行事に参加し、地域の良さや文化を知る体験活動を行っています。

校区内に大島紬泥染公園があり、中学三年生が毎年泥染体験を行っています。大変な作業を繰り返す中で、奄美の伝統文化について体験をおして学んでいます。

また、学校のある西田集落には古くから伝わる「ピッコ・サラッコ」と呼ばれる綱引き行事があり、旧暦九月九日の午前中に行われています。児童数の減少に伴い、大川小学校の行事として現在行っています。「ピッコ」と呼ばれる綱を持って、「ピッコー、サラ



泥染め体験

三 農業体験学習

大川小中学校では、農業体験学習を特色ある教育活動に位置づけて、米作りとサツマイモの植え付けを行っています。

米作りは最初子ども会で行っていましたが、平成十八年度から学校行事に取り入れ、小学校で地域の方の協力を得ながら餅米作りを行っています。収穫された餅米は、自分たちで脱穀まで行い、最後は餅つきをします。サツマイモの植え付けは、地域の方から苗を分けてもらい、小中合同で植え付けと収穫を行っています。取れたサツマイモは、その日にふかして食べたり、後日、家庭科等でサツマイモを使

った調理をする等、おいしくいただいています。また、お世話になった地域の方にもサツマイモを配っています。

四 その他の活動

これまで紹介した活動の他に、緑化活動や校区空き缶拾い、募金活動、はがき交流などがあります。募金活動は、市街地へバスで出かけて街頭募金を行いました。十一万六千五百二十三円の募金が集まり、社会福祉協議会と日本赤十字社へ寄付しました。はがき交流は、校区の高齢者へ年賀状を書き、交流を深めるものです。

今後も学校と地域が一体となり、生徒・教師・地域住民がともに学び合える活動になるよう取り組んでいきたいです。



募金活動